

# 利尻山

- 火山活動評価：静穏な状況  
火山活動は静穏な状況です。

- 概況

- ・ 火口や噴気の状況（図1～3）

上空からの目視観測では噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、火山活動を示すような明瞭な地熱域は認められませんでした。



北海道開発局提供（2007年2月26日）  
図2 ①方向から撮影

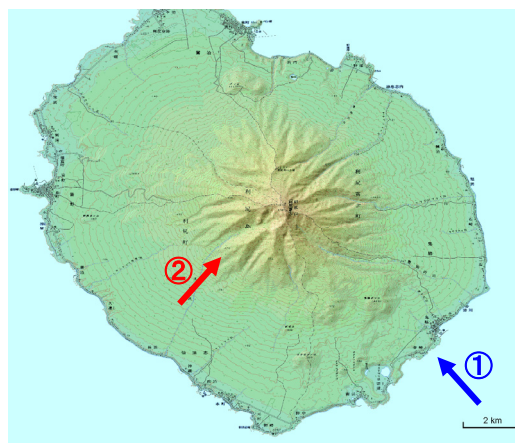


図2 利尻山 周辺図

図1※ 利尻山 全景（2月26日 南東側上空から撮影）

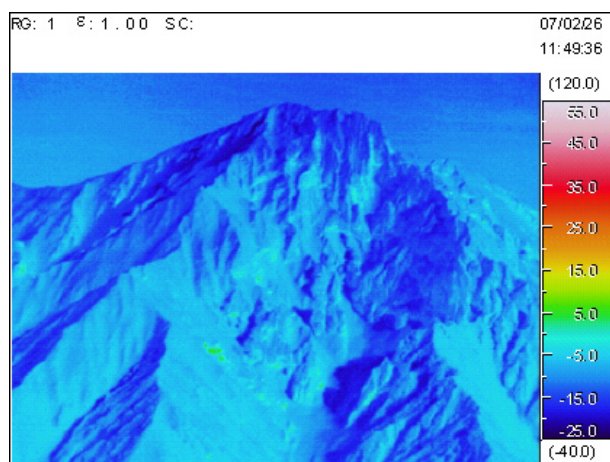
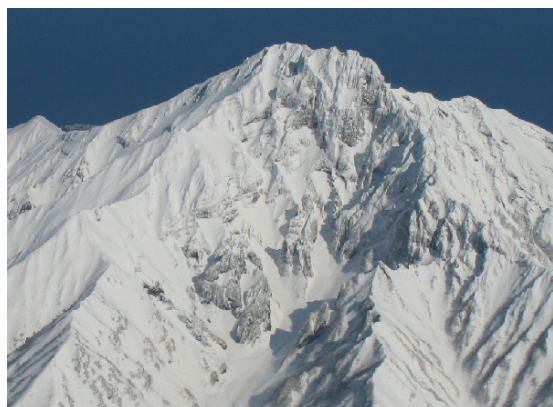


図3※ 利尻山 赤外熱映像装置による山頂の表面温度分布

（2月26日 南西側上空〔図2 ②方向〕から撮影）

\* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

参考：

利尻山は20万年前頃に活動を開始し、約4万年前までに主要な火山体を形成させ、利尻島の大部分を構成しています。最後の噴火は、玄武岩質マグマからなるマール（オタトマリ沼等）の形成（約7000年前以前）、及び小規模なスコリア丘群（鬼脇ポン山、仙法志ポン山等）の形成（2000～8000年前以前）とそれに伴う溶岩流の流出が南山麓で発生したと推定されています。

現在では、噴気活動を含めて一切の火山活動を示す兆候は認められず、記録に残る火山活動もありません。

※ 資料は気象庁のほか、北海道開発局のデータも使用しています。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平17総複、第650号）。